

にじのへやだより

令和8年7月発行 (vol.2)

病児保育室にじのへや

蕨市病児・病後児保育事業

梅雨の影響でまだまだ不安定な天気が続いていますが、少しずつ暑くなる日々が夏の訪れを感じさせてくれます。今年はおたふくウィルス、ウイルス性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌(溶連菌)、手足口病等、夏特有の様々な感染症(夏風邪)が流行してきております。また、原因不明の風邪症状や高熱も流行してきておりますので、日頃から手洗い・うがい・消毒を心がけ、感染予防につとめましょう。

病児保育室にじのへやでも、お子さま・保護者の皆様に安心してご利用いただけるよう、施設内を清潔に保ち、玩具等も丁寧に消毒を行っております。これからも感染対策を徹底してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。



5月 利用者数

5月<利用内訳(年齢別)>15(名)新規登録者数7(名)

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	学童
1	8	0	1	4	0	0	1

6月 利用者数

6月<利用内訳(年齢別)>29(名)新規登録者数13(名)

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	学童
5	9	14	0	1	0	0	0

利用児童の疾患

- 1、上気道炎 18名
- 2、胃腸炎 10名
- 3、咽頭炎 6名
- 4、アデノウイルス 4名
- 5、溶連菌 3名
- 6、ヘルパンギーナ 2名
- 7、気管支炎 1名

5月は例年と比べると比較的落ち着いていましたが、6月は胃腸炎やアデノウイルス、溶連菌のお子さまがご利用されてきました。お子さまの体調に合わせて水分補給を行い、こまめに検温をしたりと急な体調の変化に気を付けながら十分に休息をとり、安静に一日を過ごせるようにしております。

体調が良い時は、施設の玩具やご家庭から持参した大好きな玩具で保育者と一緒に遊んだり、お絵描きやシール貼り等したりして楽しく過ごしています。

また、今月は星と吹き流し、短冊をセットにした豪華な七夕製作を行いました。あらかじめ中央に穴の開いた星形の画用紙にキラキラのシールを貼ってもらい、大きくてかわいいお星さまに！中央部分はカラフルなセロハンを保育者と一緒に貼ってオーロラを再現しました。短冊部分には、お家で保護者の方と一緒にお願いごとを書いていただくようにしました。

保育の様子

お家から持ってきたお弁当を体調に合わせて食べられるところまでゆっくり食べています！



熱が高く、体調が優れない場合はコットに横になって長めに午睡を取ったり、ゆったり過ごしたりして身体を休め、安静に過ごしています。

星の周りはシールを貼り、中央はセロハンでキラキラのオーロラを再現しました！



お家の方と一緒に何のお願いごとをするのかな？
お願いごとが叶いますように…

夏かぜに注意しましょう

「ヘルパンギーナ」「手足口病」「咽頭結膜熱」は、例年6月頃から増加し始め、7～8月に流行のピークを迎えることから、「夏かぜ」と呼ばれています。

手足口病

その名の通り、手・足・口・おしり等に発疹が出る感染症です。患者の9割が5歳以下の乳幼児です。

病原はコクサッキーウイルスA6、エンテロウイルスEV71等複数あるため、何回も感染することがあります。

3人に1人が発熱しますが、あまり高熱にならないことが多いです。ほとんどの場合症状は数日で消失しますが、まれに髄膜炎等の重篤な合併症を起こすことがあるので、注意が必要です。



ヘルパンギーナ

主にコクサッキーウイルスA群によって起こり、突然の高熱、喉の痛み、食欲不振が特徴です。4歳以下での発症がほとんどで、1歳代が最も多いです。

口の中や喉に小さい水疱ができて、つぶれて潰瘍(ただれ)ができることもあります。

痛みで食事ができなくなることが多いので、手足口病と同様、脱水に注意する必要があります。



咽頭結膜熱

アデノウイルスの感染によって起こり、数日間続く高熱、咽頭炎(喉の痛み、発赤等)、結膜炎(目の充血、目やに等)、下痢が主な症状です。「プール熱」とも言います。

感染力が非常に強いので、「発症後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで(小学生は2日を経過するまで)」は園・学校は「出席停止」となります。



手足口病・ヘルパンギーナ・咽頭結膜熱の違い

特徴	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱
主なウイルス	コクサッキーウイルス、エンテロウイルス等	コクサッキーウイルスA群等	アデノウイルス
感染しやすい年齢	5歳以下	4歳以下(特に1歳代が多い)	5歳以下
発熱	発熱はないことが多い 3分の1の確率で微熱が出る	40℃近い高熱が2～4日程度続く	38～39℃の高熱が4～5日程度続く
発疹の部位	手・足・口の中等に水ぶくれ	喉の奥に水ぶくれ	出ない
食欲低下	口内の痛みによりやや食べにくいことがある	喉の痛みで強く出やすい	喉の痛みで強く出やすい
登園・登校	解熱して元気になれば可能	解熱して元気になれば可能	登校・登園不可(出席停止) 症状が消失してから3日(小学生は2日)経過後から可能

予防 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱にはワクチンはありません。治療薬もないため、対症療法をしながら自然に治るのを待ちます。最も感染力があるのは「症状がある間」ですが、症状がなくなった後でも、咳・くしゃみからは1～2週間、便からは約1ヵ月ウイルスが排出されているため感染する可能性があります。子どもから移った保護者の方が重症化してしまうこともあるため、注意しましょう。

- ・手洗いは流水と石けん(ハンドソープ)でしっかり行う(特に食事の前とオムツ交換やトイレの後)
- ・使用済みオムツはビニール袋に入れて密閉して捨てる
- ・タオルや食器を共用しない



を徹底しましょう。

ホームケア 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱は、口の中や喉の痛みで食事や水分がとれず、脱水になる危険性があります。脱水とは体内の水分と塩分(電解質)が不足した状態のことで、症状が進むと意識障害やけいれんを起こしたり、ショック状態となり命に関わることもあります。

- ・喉ごしのよいものを食べさせる: 飲み込みやすく、刺激の少ない物を食べさせましょう。プリンやゼリー、アイスクリーム、柔らかく煮たうどんなどを少しずつ与えるのがおすすめです。
- ・解熱薬を上手に使う: アンヒバやカロナール等の解熱鎮痛剤には、熱を下げる効果の他に、痛みや倦怠感を緩和する効果があります。
これらの薬を使用すると喉の痛みが和らぐので、その間に食事や飲水をすすめましょう。